

Message

家でも楽しんでいただけるように、埋蔵文化財センターと三股台考古館ではHPからグッズの販売を行っております。

グッズ販売 埋蔵文化財センターHPから購入できます。**送料別**

勾玉キット 300円(税込)

古代人のアクセサリー「勾玉」を家で簡単に作れます。

横浜城郭図(中世) 100円(税込)

横浜市内の中世城郭位置を地図上にプロット。裏面は発掘調査された中世城郭の情報掲載。

横浜市内の城郭めぐりに活用しよう!

発掘調査報告書等の刊行物 頒布価格要問合せ

発掘調査報告書を中心とした刊行物を作成しています。横浜市立図書館などで見ていただけるほか、可能なものについては希望者に頒布しています。

三股台オリジナルグッズ通信販売のご案内

横浜市三股台考古館で販売中のオリジナルグッズや調査報告書を通信販売でも受付けています。

第15回 埋蔵文化財センター 旧鍛冶ヶ谷村周辺を歩く

日時: 令和3年5月29日(土) 9時~12時
 集合: 本郷小学校前(入場金沢八景方面の遺跡や寺社などを歩きながら紹介します。)
 対象: 中学生以上(健脚向きです)
 人数: 25人(応募者多数時は抽選)
 費用: 500円(資料・保険代)
 申込: FAXか任意はかきに行き事名「埋蔵文化財センター」氏名(ふりがな)・連絡先(FAXの場合はFAX番号も記入)・申込人数・「埋蔵文化財センター」を記載し、埋蔵文化財センターへ
 ※募集期間: 令和3年4月15日(木)~5月15日(土)必着

所長の部屋

長年、横浜市内の埋蔵文化財のお仕事に携わってきた所長にインタビューしてみました。

一番印象的だった遺跡はどこですか?
 現在、アメリカカ山公園(中区)にある元町貝塚です。10以上の層々の貝層の断面がミルフィーユのようにきれいに並んでいるのが印象的でした。

一番大変だった作業は何ですか?
 知名寺日伽堂跡(金沢区)では、低湿地のためか、試掘の穴が一夜でゴールのように湧水がたまり、毎朝、水汲みだしていました。

今後、種々の文化財に求めることは何ですか?
 横浜には多くの(埋蔵)文化財がありますが、皆さんの町にもある文化財を身近に感じてください。

Thank You!

Twitter はじめました

今回のテーマは野島貝塚です。展示解説も兼ねる形で、1遺跡だけの特集をしてみました。近隣にお住まいの方にも、そうでない方にも、野島に宿泊体験に来る小学生にも、野島公園に野球をしに来るダンディなシニア世代の方たちにも、皆さんに是非手に取っていただき、身近な遺跡について知っていただけたら幸いです。

通常号より濃い内容になっていますが、どっぷりとその魅力につかっていたただくことを期待して、作成しました。また、こんな遺跡も取り上げてほしい、こんな特集もしてほしいというご意見がありましたら、埋蔵文化財センターまでご連絡ください。

皆さんの温かいお声に感謝して、今後も魅力ある情報を発信していきたいと思っております。

埋蔵文化財センターのご案内

平日: 9~17時(イベント時を除く)
 (団体利用: 事前申込) ※楽区職工資料館併設

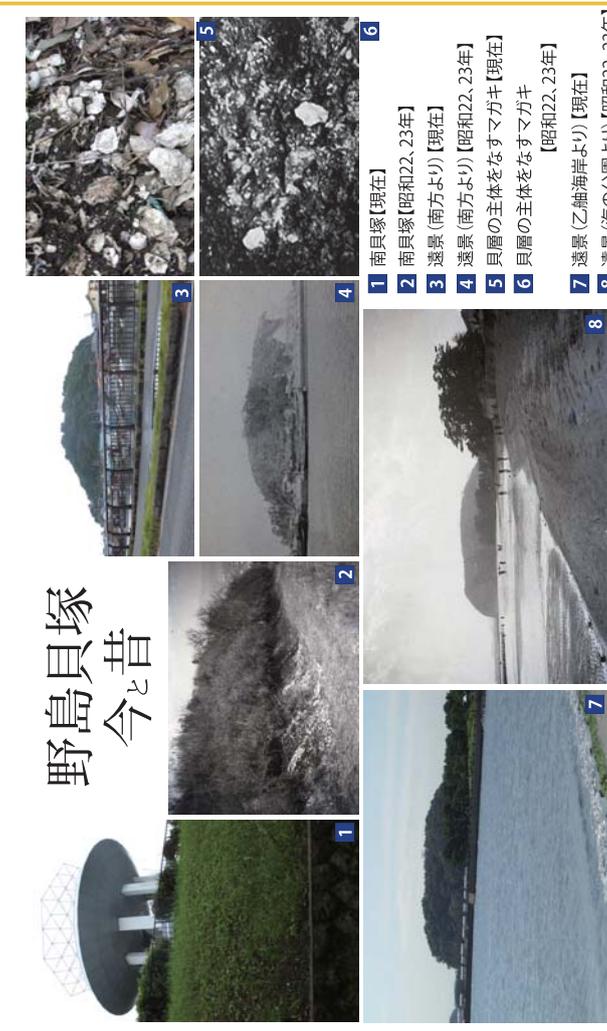
アクセス

- JR根岸線「港南台」駅 2番バス乗り場より神奈中バス「上郷ネオポリス」行きまたは「東アール」行きに乗り、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分
- 京浜急行線「金沢八景」駅 金沢八景駅前3番乗り場より「上郷ネオポリス」行き 終点「上郷ネオポリス」下車徒歩1分または神奈中バス「大船」行きに乗り、「長倉」下車徒歩7分
- JR線「大船」駅 3番乗り場より神奈中バス「金沢八景駅」行きに乗り、「長倉」下車徒歩7分

埋文よこはま

しせき
 43
 企画展特大号

野島貝塚 (指定史跡名勝天然記念物(横浜市指定))
 Nojima shell mound



- 1 南貝塚(現在)
- 2 南貝塚(昭和22、23年)
- 3 遠景(南方より) [現在]
- 4 遠景(南方より) [昭和22、23年]
- 5 貝層の主体をなすマガキ [現在]
- 6 貝層の主体をなすマガキ 【昭和22、23年】
- 7 遠景(乙袖海岸より) [現在]
- 8 遠景(海の公園より) [昭和22、23年]

横浜市内には、多くの指定・登録文化財があります。史跡の内訳は、国指定(国重文)が5件、県指定が3件、市指定が7件、市登録が74件で跡は89件にのぼります。史跡の内訳は、国指定(国重文)が5件、県指定が3件、市指定が7件、市登録が74件です。

野島貝塚は金沢区に所在する約8000年前の縄文時代早期の貝塚ですが、野島貝塚以外にも史跡となっている貝塚がいくつもあります。市指定として、港北区師岡貝塚、鶴見区鶴見神社境内貝塚、中区元町貝塚、市登録として神奈川区3沢貝塚があり、この他に国指定史跡である三股台遺跡にも貝塚があります。

こうした史跡には、現地を訪れると案内板がたっており、説明が書かれています。現地を訪れれば、現在も残る地面の下の遺跡に感動すると思います。特に野島貝塚と元町貝塚は公園となっており、高台からの景色を望めば、貝塚の立地がよくわかり、当時の情景に思いを馳せることができます。

※文化財保護法では、文化財を「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「記念物」「文化的景観」及び「伝統的建造物群」と定義し、これらの文化財のうち、重要なるものを指定・選定・登録し、重点的に保護しています。文化財の指定・選定・登録は、文部科学大臣が文化審議会に諮問し、その答申を受けて行われます。また、「文化財」の指定・選定・登録は、文部科学大臣が文化審議会に諮問し、その答申を受けて行われます。



野島貝塚を知ろう!

Let's know the Nojima shell mound



野島貝塚概要

summary of Nojima shell mound

野島貝塚とは金沢区野島に所在する今から約8000年前の縄文時代早期の貝塚です。終戦後すぐに発見され、昭和20年代には小規模な発掘調査が何回も行われています。横浜市内では最古の貝塚であり、縄文時代早期の「野島式土器」の標式遺跡でもあります。



野島貝塚の資料は現在再整理中ですが、ここでは、これまでの報告等で記載されていることをまとめて記載しています。今後さらに多くのごことが判明してくると思います。

場所 金沢区野島町24付近

立地 平潟湾口に浮かぶ小島(野島)に位置(標高約53m) 貝塚は島の北側頂部縁辺(南貝塚)及びその斜面部(北貝塚)(東貝塚)に所在

発見と調査 終戦後、佐野大和による発見 昭和22~23年に赤星直忠、吉田裕らが小規模発掘調査を数度実施 昭和23年宇野小四郎、藪野豊昭による発掘調査 昭和58年に野島貝塚調査団(代表 岡本勇)による調査 平成2年横浜市指定史跡

貝塚の分布 地点1: 南貝塚(北側縁辺部に所在)…20m²にわたり帯状に分布、厚さ約10~30cm 地点2: 北貝塚(北側縁辺部に所在)…南貝塚の下側に15m²前後の貝層 地点3: 東貝塚(北側斜面中腹に所在)…約40m²、厚さ20~50cm程(海岸への階段の東側) ※これらの地点貝塚の関係性、時期差などについても現在検討中です。

検出遺構 貝層のみ ※住居跡や土坑などは発見されていません。ただし、赤星ノートには焼土や「くぼみ」状のものの記載があり、住居などの可能性があります。

出土遺物 貝層内…野島式・茅山下層式土器(縄文時代早期後葉)、敲石、打製石斧、尖頭器(鹿角製釣針、鯨骨製骨斧、ノミ状牙製品、貝輪) 貝層直下…子母口式土器(縄文時代早期後葉) 貝層下の土層内…大丸式土器(縄文時代早期前葉)

貝種 マカギ(干潟群集②)主体の純貝層が数10cm堆積 その他、30種以上の貝類出土 アサリ、オニアサリ、カガミガイ(内湾砂底群集③) ハイガイ(干潟群集②)、オオヘビガイ(内湾岩礁性群集⑤) テングニシ(沿岸砂泥底群集⑥) イボニシ、スガイ、コシダカカンガラ、カリガネガイ(外海岩礁性群集⑩)

動物遺体 大半がシカ・イノシシ、イルカも相当量、イヌ、(ネコ) ※ネコは新しい時期の混入の可能性 魚類はタイ科が多い (陸獣5種、海獣類5種、魚類7種、鳥類1種) 動物遺体はP12、13参照

年代測定 南貝塚8160±140yBP(ウチムラサキガイ) ※測定値(未校正) 北貝塚8670±190yBP(カガミガイ)

①これまでの発掘調査とわかっていること

野島貝塚は戦後すぐの発掘という理由もあり、現在、10か所以上の機関・個人に分散して保管されています。その中で、最も多くの遺物や記録類が残されているのが赤星直忠の発掘調査によるものです。遺物は横須賀市自然・人文博物館に、記録類は神奈川県埋蔵文化財センターに保管されています。赤星による発掘調査では、北貝塚と南貝塚の2か所が見つかったっており、南貝塚については赤星の論文によって内容が公開されています。



a 赤星による野島貝塚の調査記録 左: 南貝塚 右: 北貝塚 (神奈川県教育委員会所蔵)

b 野島貝塚の調査地点 等高線間隔: 0.5m (地理院タイル(標高タイル)を「Web等高線メーカー」サイトで作成)

c 赤星による野島貝塚の調査地点 1: 南貝塚 2: 北貝塚 (神奈川県教育委員会所蔵)

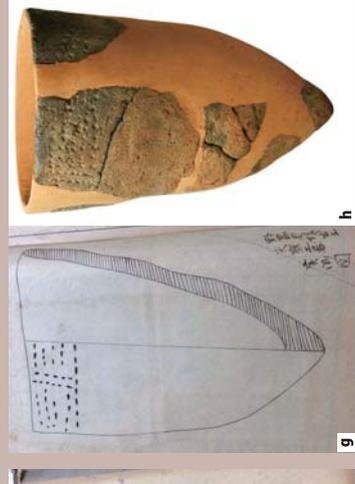
d 赤星による野島貝塚の調査地点貝取り図 カ一区貝塚: 南貝塚 茅二区貝塚: 北貝塚 (神奈川県教育委員会所蔵)

e 赤星による野島貝塚の南貝塚の断面図 上段貝層: 東西方向 下段貝層: 南北方向 (神奈川県教育委員会所蔵)

f 赤星による野島貝塚の北貝塚の断面図 焼土や「くぼみ」状の表現がみられる (神奈川県教育委員会所蔵)

g 赤星による野島貝塚出土の茅山式土器の実測図 (神奈川県教育委員会所蔵)

h gと思われる野島貝塚出土の茅山式土器(所蔵)



※ 赤星ノートとは神奈川県における考古学の先駆者の一人であった、元神奈川県文化財審議委員であった故赤星直忠先生が、県内を調査して歩かれた際に記録された膨大な量の現地調査記録ノートです。

野島貝塚を知ろう!

Let's know the Nojima shell mound

野島貝塚周辺図

map of the surrounding area of Nojima shell mound

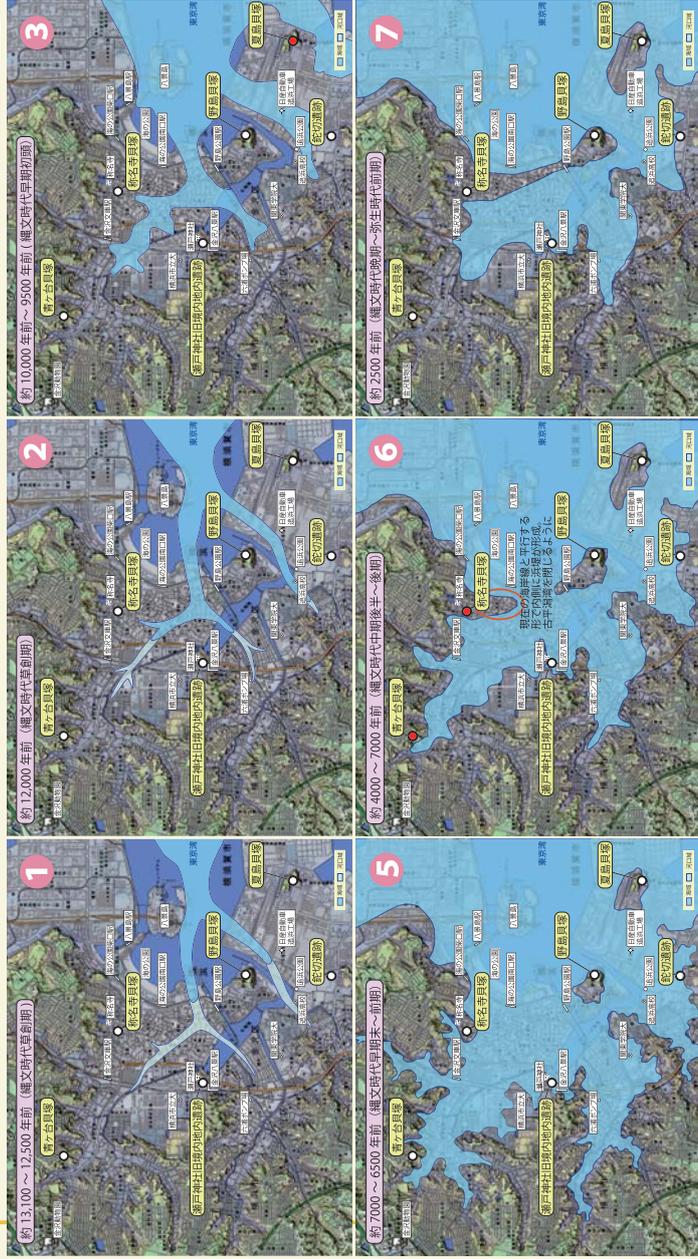


野島貝塚が形成された縄文時代早期後半という時期は、縄文海進の真っただ中であり、遺跡周辺の地形は大きく変わっていききます。大きな気候変動は、人々の生活にも大きな影響を与えたと考えられています。

② 遺跡と周辺地形の変化

しほもともかへん

海域の拡大



海域最大期



明治期の野島貝塚とその周辺
明治前期測量2万1千分1地形彩色地形図の一部加筆

野島貝塚がつけられたとき、野島は平潟湾に突き出した半島となっていました。縄文海進が進むと、やがて野島は独立した島となっていく(5)。縄文海進最高期を経て、海退に転じると、称名寺付近には現在の海岸線と平行する形で内側に浜堤が形成され、古平潟湾を閉じるようになります(6)。やがて浜堤は野島近くまで延び、湾口が閉塞する形となりました(7)。この延びた「乙船」に描かれた乙船海岸です。陸続きの孤立丘であった野島が再び島となったのは、追浜に海軍の飛行場が造られた関係で、平潟湾の出入口として地続きだった野島と野島の間に運河を掘ったため(8)。野島の掩蔽壕→



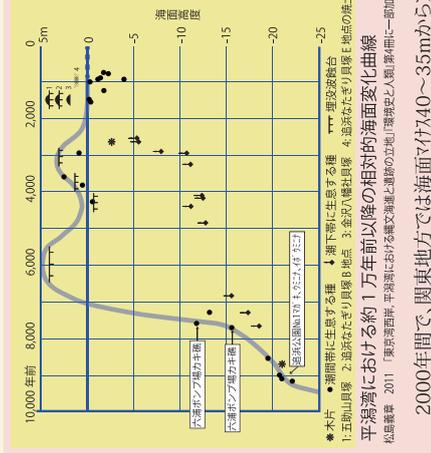
海域の変遷図は、2016「東京湾西岸、平潟湾における縄文海進による環境の変遷」(河原川 辰雄)を参考に作成。河原川の地図は「地形」(http://www.kstmm3d.com)を使用。

海域変動を見やすくするために、ポイントとして著名な遺跡6か所を地図に落としています。各遺跡の時期は異なるため、遺跡のポイントを赤丸●としています。



野島貝塚があったころ

縄文時代早期後半 (約7500年前) Early jomon period
野島貝塚がつけられたころ、野島は、南の追浜方面から東京湾に突き出した半島の先端部に位置していました。このころは現在の野島にはまだ存在せず、4 のような海岸線が想定されています。六浦ポンプ場で採集されたマカキから、約7600年前には海抜マカキ15.5mに達していたことがわかっています。この付近の干潟にはカキ礁が、また追浜公園付近の水深は大きく、トリガイなどの内湾泥底群集が分布していました。早期初期に比べ、内湾が大きく拡大し、濃奥の砂質底にはハマグリやアサリ、カガミガイなどの内湾砂底群集が生息し、湾内に生息する貝類は多かつたようです。野島貝塚の人々は、こうした古平潟湾の海岸へと貝類を採集しに行っていたとみられます。



2000年間で、関東地方では海面マカキ740～35mから7374mへと、約40mも上昇したと考えられています。

野島貝塚を知ろう!

Let's know the Nojima shell mound



野島貝塚出土遺物

excavated relics of Nojima shell mound

型式名にもなっている
野島式土器ってどんな土器?

胎土に植物繊維を含み、主に放射筋をもつ貝殻腹縁を用いて器面に柔痕を施す「条痕文系土器」

器形…平縁と波状縁の尖底深鉢。

新段階ではくびれと小さな平底が成立。

文様…細隆起縁と沈線文の複合が特徴。

絡糸体丘痕文、貝殻腹縁文

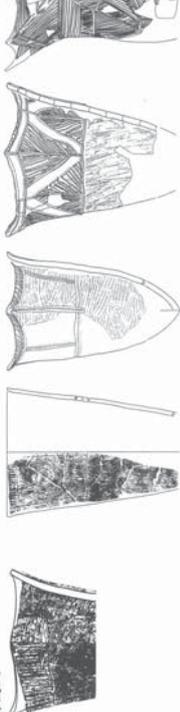
用途…煮炊き用。

小型の土器は不明な部分が多い。

Point

- ・条痕文系土器期に爆発的に増加する炉穴に据えて使用
- ・尖底部より上部に煤の付着が見られることから底部を突き刺して安定させて使用
- ・その前までは丸底

野島式



野島式土器 (横須賀市自然・人文博物館所蔵)

③出土遺物—土器編

三浦半島の遺跡は明治時代から知られており、明治20年代には吉井貝塚などに研究者が度々来訪しました。横穴墓の調査を進めていた赤星直忠は大正10年に三浦半島に貝塚があることを知り(茅山貝塚)、赤星はその年に江戸坂貝塚、吉井貝塚の遺物の採集に努め、その資料は当時縄文土器編年の研究を続けていた研究者たちに注目されることとなりました。昭和5年には山内清男が縄文土器の中でも織維土器が最も古いという見通しのもと調査を続けており、赤星の資料を見直し、関東地方の縄文時代早期の「茅山式土器」が設定されました。

太平洋戦争がはじまり赤星の研究も制限されてきましたが、昭和20年、戦争が終結すると、赤星はすぐに考古学の調査を再開します。その一つが昭和22年に行った野島貝塚の発掘調査です。その結果、野島貝塚の貝層から出土した土器を「田戸式」と「茅山式」の中間に位置すると予想し、野島式土器として茅山式土器から型式的に分離します。

茅山貝塚の発掘調査が行われると、貝層下の土層から野島式土器が出土し、編年の位置が確認されました。茅山式土器は野島式—鵜ヶ島台式—茅山下層式—茅山上層式土器に細分、編年され、関東地方の縄文時代早期後半の土器型式として位置づけられました。

条痕文系土器ってこんな感じ



左のよう
な放射筋
の腹縁部
で、助け
をうけて
つけたら
れた。

全面に柔痕がわろ



条痕文系土器 都筑区北川貝塚出土



条痕文系土器 都筑区北川貝塚出土

生地の土に植物繊維を練りこみ、「織維土器」に練りつける貝殻条痕文

小形連環編 2008 『総覧縄文土器』より転載

自製の陶器と土器の地文に練りつける貝殻条痕文

左の白い針状のものは、「白色針状物質」「動物骨針」などとも呼ばれます。海綿動物が体内に持つ骨格とみられており、埼玉・群馬・茨城・栃木・群馬の須恵器に含まれるものが特に著名です。

骨針状物質

骨針が含まれる粘土層を利用したものと考えられており、縄文土器では、神奈川県内、群馬県、東京都多摩ニュータウン遺跡群の早期後半土器群での存在が知られています。

骨針状物質

骨針が含まれる粘土層を利用したものと考えられており、縄文土器では、神奈川県内、群馬県、東京都多摩ニュータウン遺跡群の早期後半土器群での存在が知られています。

西暦

西暦	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

三浦半島

五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

元号

元号	西暦	西暦	西暦
明治	1868	1889	1904
大正	1912	1926	1938
昭和	1926	1945	1989
平成	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

主な出来事

主な出来事	西暦	西暦	西暦
明治維新(明1)	1868	1889	1904
大正10年(大正10)	1920	1926	1938
昭和20年(昭和20)	1945	1945	1989
平成元年(平成元年)	1989	2019	2022

考古学研究史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告(明治20)

世界

世界	西暦	西暦	西暦
1868	1889	1904	1916
1891	1904	1916	1927
1927	1943	1957	1959
1966	1976	1987	1994
1994	2010	2019	2022

日本史

三浦半島
五浦丸江川原貝塚発見
久野直忠の報告(明治20)

赤星直忠の報告(明治20)

山内清男の報告

野島貝塚を知ろう!

Let's know the Nojima shell mound

野島貝塚出土遺物

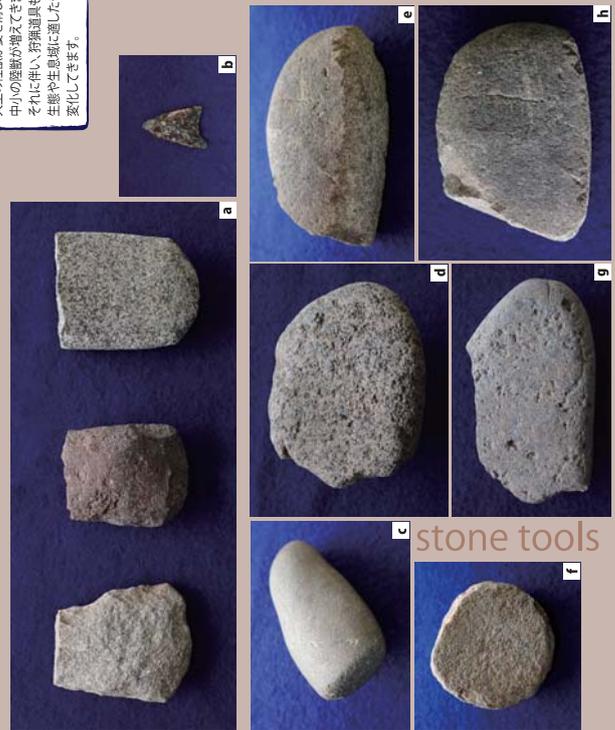
excavated relics of Nojima shell mound

野島貝塚のあった縄文時代早期後葉の条痕文土器を出土する遺跡はきわめて多く、「上昇期」という概念が提唱されるなど、この時期、釣針や石釜、石鏃などの労働用具の分化、改良、量産がみられます。石器には狩猟用具や調理具、工具、装身具などがあります。赤星による発掘調査では、磨石や敲石類が多く出土しています。

こうした石器類は植物加工具と考えられています。

また、野島貝塚からは石鏃類もみられ、狩猟具と考えられています。この時期にみられる石鏃は兼茎(突柄に取り付けられるもの)が多くみられます。こうした石鏃類の増加の背景には生業が少ないので、環境は異なります。縄文時代草創期から早期にかけての動物遺体のキヤアナグマ、イヌなどが出土しています。縄文時代草創期から早期にかけての動物遺体の移り変わりを見てみましょう。縄文時代草創期段階ではツキノワグマやカモシカが多く出土し、シカも少量みられますが、イノシシの出土はみられません。縄文時代早期になると、シカが増加し、イノシシの出土もみられます。こうした動物相の変化が石器組成にもあらわれてきます。

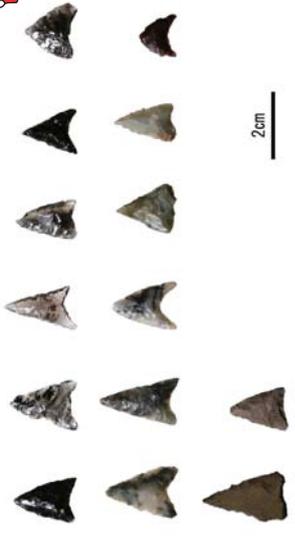
大型の動物が減少し、
小型の動物が増えています。
それに伴い、狩猟用具も動物の
生態や生息域に適したものに
変化していきます。



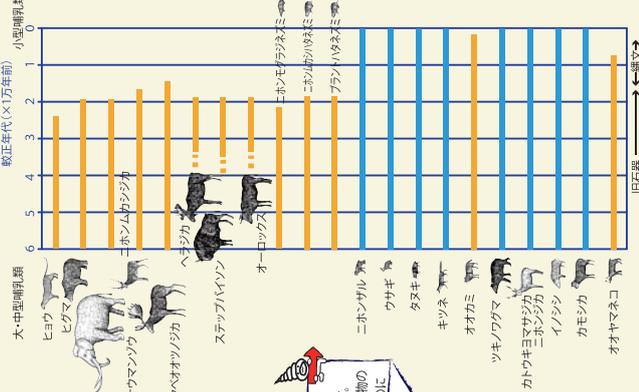
a 打製石斧 b 石鏃 c・d 敲石 e~h 磨石 (すべて横須賀市自然・人文博物館所蔵)

stone tools

④出土遺物—石器編



野島貝塚採集の石鏃 (神奈川県立歴史博物館所蔵)



イノシシの出現頻度は後更新世では非常に低い。ツキノワグマやカモシカは後更新世ではみられない。これらの種は、それまでごくわずかであったが更新世では一般的にみられるようになる。参考文献: 2001 『更新世の動物の生態と人類』 国立歴史民俗博物館研究報告第9号第2巻を改変



動物骨にみられるカットマーク
クジラの骨です。
左端には石器などの道具でつけられた
傷がみられます。

どんな暮らしをしていたの? ~定住化のはじまり~

現在、私たちの多くは一定の場所に住居を構え、そこで生活を営む定住生活者です。定住とは移動生活、つまり旧石器時代の遊動生活とは異なり、一定の場所に住み着くことを言います。しかし、考古学において、何を以て「定住化」とするのかについては様々な意見があります。

では、野島貝塚の人たちがどのような暮らしをしていたのでしょうか。野島貝塚より少し前、夏島貝塚があった頃の縄文時代早期前葉の時期から住居跡は見つかっています。さらにその前の縄文時代草創期、不確実なものも含めれば後期旧石器時代に遡る例も知られています。縄文時代早期前葉にはある程度の樹木の集落がみられますが、続く早期中葉には、神奈川県内では住居跡がごくわずかとなり、初期定住化の終焉ともみられています。早期前葉の初期定住化の要因として、気候の温暖化とともに、植物食料の加工具とされる磨石やスタンプ形石器、石皿という石器の発生と増加が指摘されています。これらの石器の登場により、植物食料の加工が可能になると考えられ、定住化に関連するとみられています。

野島貝塚のあった早期後葉の条痕文土器期になると、千葉県では住居跡の検出例は多いですが、東京、神奈川県、埼玉県では少ない傾向にあります。下に横浜市内で検出された野島式期の住居跡を挙げてみました。方形基調をしています。この時期の住居は不整形なものも多く、柱穴の在り方も様々です。また、炉は竪穴住居内にはほとんど見られませんが、住居がなく、屋外に炉穴のみがみられる遺跡も多くあります。炉穴は長さ1.2mほど、深さが0.5mほどの楕円形をし、穴底は火をたきやすいように足場より炉穴がわずかに凹み、赤く焼けた灰土が溜まったものが一般的です。残りが良い炉穴の中には煙道とみられる部分も残っています。



どんな暮らしをしていたの? ~ハンティング・サイト~

縄文時代早期後半の多くの遺跡で落し穴と炉穴がみつかります。野島貝塚は海浜近くの遺跡ですが、海からやや離れた地域の様相をみてみましょう。港北ニュータウン地域では、約4km四方の中に、縄文時代早期後半の遺構が130か所以上の遺跡でみつかっています。そのうち落し穴126基、炉穴81基、住居跡5軒と、ほとんどの遺跡で落し穴が検出されています。落し穴は長さ1.5m、深さ1.0mほどで楕円形や隅丸長方形に掘られ、谷やイノシシの斜面地に複数みられます。これはシカやイノシシを捕獲するための罟と考えられています。落し穴とみられる土坑だけで構成される遺跡も多くみられることから、それらは「ハンティング・サイト」としての性格をもつ遺跡とみられています。石器組成の中には石鏃が含まれ、居住域と猟場を持つ居住スタイルが想定されています。



東方10遺跡20号土坑断面

気候の変化は、植物や動物の変化を引き起こした。する工具も変化してライフスタイルまで変わっていったのだね



赤くなったところは火を焚いていたところだよ

大熊野町遺跡
左: J80号住居址
右: J6~J13号炉穴

野島貝塚を知ろう!

Let's know the Nojima shell mound

野島貝塚出土遺物

excavated relics of Nojima shell mound

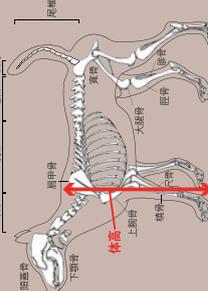


野島貝塚出土の動物遺物の主体は、シカやイノシシです。その他に陸獣類では、タヌキやアナグマ、イヌなどが出土しています。縄文時代早期の海浜部の遺跡では、魚類や海獣類などの多様な海の生物の捕獲を行っていました。

イヌと人の関係はいつから?



イヌ下顎骨 (a・b) 夏島貝塚(横須賀市) c～e 野島貝塚



野島貝塚からイヌの下顎骨が3点出土しています。これらは現在、国立歴史民俗博物館に直良信天コレクション資料として保管されています。当時、赤星から直良へ鑑定を依頼したものです。下顎骨の一部しか出土していないため体高推定はできませんが、他の標本資料と比較してみると、体高44～45cmほどの、スピッツやアイヌ犬程度の大きさの犬や、もう少し小型の犬がわかります(下表参照)。愛媛県上黒岩遺跡からは国内最古といわれる2体の埋葬犬骨が出土しています。これらの体高は約38cm、41cmと推定されています。また佐賀県東名遺跡からも縄文時代早期のイヌの骨が100点以上出土し、体高は43～47cmと推定されています。このように、大小のイヌのサイズがみられることから、大小のイヌが縄文時代早期前から前期頭項までにすでに出現していたとみられています。ちなみに縄文時代全体のイヌの平均体高は42cmほどです。

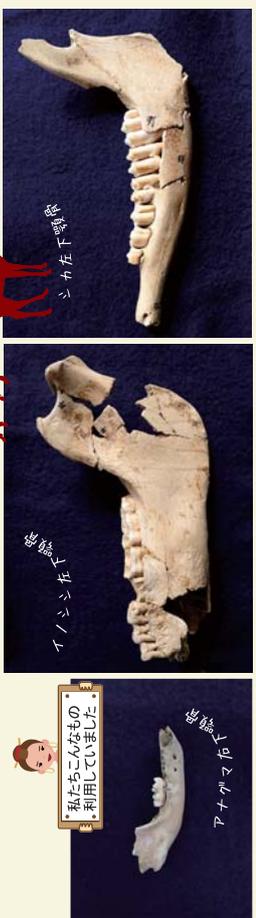
品種	標本の種類	体高	第1後臼歯の最大長さ (mm)	第1後臼歯の最大幅 (mm)	第2・第3前臼歯間の下顎体厚 (mm)
アイヌ犬(♀)	現生標本	430	19.4	7.5	7.9
スピッツ(♀)	現生標本	440	20.5	8.1	7.7
紀州犬(♂)	現生標本	450	20.6	8.2	10.2
シェパード(♀)	現生標本	500	22.1	9.4	12.3
夏島貝塚	遺跡出土資料、縄文時代早期	19.3	7.6	9.4 [※]	
野島貝塚	遺跡出土資料、縄文時代早期	17.9	8.4	7.9	
野島貝塚	遺跡出土資料、縄文時代早期	20.5	8.3	10.1	
野島貝塚	遺跡出土資料、縄文時代早期	17.7	7.0	9.6	

※縦・第2後臼歯間で計測不可。第2後臼歯部全体で計測。現生標本・西本豊弘氏所蔵。浪形厚子 2015 「金沢市野島貝塚-縄文時代早期の海浜部古の住居と生業」『平高27年産調』(東京の考古学)より転載

網魚の話

野島貝塚の出土遺物を整理中に、土器片鍾がみつかりました。土器片鍾とは、土器片の側面を加工研磨し、長軸上に紐や糸掛けのための切り込みを持つものです。一般的には漁網網に使用したと考えられています。横須賀市平坂貝塚から縄文時代早期然系文期の土器片鍾が出土していますが、三浦半島地域での土器片鍾は、縄文時代中期より一般的にみられます。野島貝塚からは大きい釣針も出土するなど、その漁法も注目されます(15頁)。野島貝塚は古い調査のため、魚類は大きい骨のものはかりが目立ちます。現在の調査では、細かなものまで抽出し、資料に偏りがないようにするため、「ブロックサンプリング」というフルイによる抽出を行います。このようにして抽出された資料の中には、例えば、船橋市取掛西貝塚のように、小形の魚類も縄文時代早期の前葉段階でみられるなど、早期の早い段階からすでに、網漁などでの漁法もあったのではないかと考えられています。

⑥出土遺物—動物遺体編



シカ(左)下顎骨、イノシシ(右)下顎骨

野島貝塚からはネコの骨が7個体以上出土しています。当時、動物遺体を鑑定した直良信夫は後世の混じり込みだと判断しましたが、長谷部言人はヤマネコと判断しました。野島貝塚の発掘調査が行われていたころは縄文時代の遺跡からネコの骨が多数出土しており、縄文時代にネコの飼育があったと考えられています。現在、日本の遺跡出土ネコ骨の最古は長崎県壱岐のカラカミ遺跡(弥生時代)であり、日本へのイエネコの移入は弥生時以降とみられますが、まだ時期はつきりしていません。ネコの文獻への初見は『日本霊異記』(8～9c初成立)で、飼いが具体的に記述されるのが『宇多天王御記』寛平元(889)年2月6日の記事です。更新世から縄文時代中後期の遺跡でオオヤマネコの骨は出土しますが、オオヤマネコはイエネコより明らかにサイズが大きいです。ツシマヤマネコ相当のサイズのヤマネコが当初日本列島にいたのかどうかは不明とされています。

ここで、あなにはこの骨、縄文時代より後の時代のイエネコが混じりこんだのではないかと考えますか? 否、それとも、縄文時代に日本列島にヤマネコがいたのではないかと考えますか?



火をかけた痕跡がみられるよ

MINI

イエネコV.S.ヤマネコ

野島貝塚からはネコの骨が7個体以上出土しています。当時、動物遺体を鑑定した直良信夫は後世の混じり込みだと判断しましたが、長谷部言人はヤマネコと判断しました。

野島貝塚の発掘調査が行われていたころは縄文時代の遺跡からネコの骨が多数出土しており、縄文時代にネコの飼育があったと考えられています。現在、日本の遺跡出土ネコ骨の最古は長崎県壱岐のカラカミ遺跡(弥生時代)であり、日本へのイエネコの移入は弥生時以降とみられますが、まだ時期はつきりしていません。ネコの文獻への初見は『日本霊異記』(8～9c初成立)で、飼いが具体的に記述されるのが『宇多天王御記』寛平元(889)年2月6日の記事です。更新世から縄文時代中後期の遺跡でオオヤマネコの骨は出土しますが、オオヤマネコはイエネコより明らかにサイズが大きいです。ツシマヤマネコ相当のサイズのヤマネコが当初日本列島にいたのかどうかは不明とされています。

クジラやイルカを捕獲していたの? ~海の生物の利用~



日本人は古くからイルカやクジラなどを利用しており、縄文時代早期の遺跡からその痕跡が確認できます。野島貝塚近隣の横須賀市夏島貝塚や吉井貝塚、東京湾を挟んだ対岸では船橋市飛ノ貝塚、また鶴山市稲原貝塚や沖ノ島遺跡などからも多量のイルカの骨が見つっています。

この時期には、鯨などの骨角器と一緒に出土することは、そのため、その捕獲方法についてはまだ不明な点が多いです。縄文海進の真っただ中であり、地形変化が激しく、出土動物遺体や貝類などからも外洋的傾向がみられるものが多く出土していることから、縄文人が積極的に外洋へ出て行って捕獲していたというより、近くにきた個体を捕獲したという見方もあります。

ただし、沖ノ島遺跡では哺乳類の9割をイルカが占めることから、イルカの捕獲や解体場であったと見られる見方もあり、また稲原貝塚ではイルカの骨に刺さったまま石器も出土しているなど、積極的な捕獲の痕跡ともみられる遺物も出土しています。



千歳県鶴山市沖ノ島



千歳県鶴山市沖ノ島(縄文時代)

野島貝塚出土土器片鍾

(鎌倉学園中学校・高等学校所蔵)

野島貝塚を知ろう!

Let's know the Nojima shell mound



野島貝塚記録

record of Nojima shell mound

野島貝塚はその存在が知られると、昭和20年代に多くの人が発掘調査や遺物の採集を行います。昭和23年、宇野小四郎と藪野豊昭も当時著名であった野島貝塚を発掘します。二人は丁寧な記録を残し、それらは当時の状況がわかる貴重な資料です。また遺物は鎌倉学園に所蔵されており、現在整理作業を行っています。



鎌倉中学考古学部 藪野・宇野 記録

藪野豊昭は1941年(昭和16)に鎌倉中学(現：鎌倉学園高等学校)入学、宇野小四郎は1944年(昭和19)に多摩川学園中等部から鎌倉中学に転校してきました。宇野は当時稀有だった自由学園で考古学を学んでいました。

藪野は1943年(昭和18)に勤労動員令で横浜市戸塚区久和村の照明弾工場「日本火工」寮に合宿、宇野と出逢います。二人は休日には空襲警報下の中、戸塚区の丘陵にある縄文遺跡を歩いていました。しかし、時代は太平洋戦争の頃です。1945年(昭和20)の春に藪野は兵庫県加古川航空通信隊入隊し、航空機は壊滅し特攻訓練に終始していました。

1945年(昭和20)8月に敗戦すると、二人は鎌倉中学4年に復学し、1946年(昭和21)に鎌倉中学に「考古学研究部」を設立します。1947年(昭和22)には酒詰仲男の指導を受け、縄文時代の遺跡調査に熱中していました。

鎌倉中学を卒業すると、藪野は1948年(昭和23)に横浜市金沢区「日本製鋼所横浜工場」鑄造工場に就職します。その工場直近に「野島貝塚」があり、宇野と調査し、多数の土器・獣骨・骨器を採取し文献報告しています。2人の調査記録は非常に詳細に記載されており、出土遺物に関しても精緻な図が丁寧に描かれています。

宇野はその後、1948年(昭和23)に「ひょっこりたん島」で著名な「人形劇団ひとみ座」の設立を主導し、全国に活動展開、1969年(昭和44)には「(財)現代人形劇センター」を設立するなど、人形劇の第一人者として活躍します。藪野もまた、都内の法律事務所勤務やデザイン会社設立を経て、北陸の金属会社で千保川に架かる「鳳鳴橋」改築デザイン化事業に加わるなど、高岡市の歴史に係わる重要な企画業務を担当します。2人は考古学とは離れますが、長年それらの道を歩み、活躍されました。

⑦もう一つの発掘物語



a~e 藪野豊昭による野島貝塚調査資料記録表紙 (野内秀明氏所蔵)

a 野島貝塚調査資料記録表紙

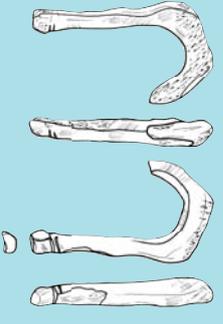
b 野島貝塚の調査地点貝の散布地やおそらく赤土による発掘と思われる地点も記載されている

c 野島貝塚B地点断面図

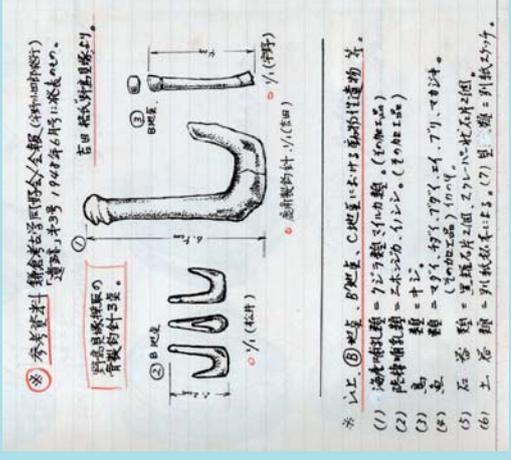
d 野島貝塚出土のインジジ上顎骨図

非常に精緻な図であり、雌の成獣個体であるなど、雌雄や年齢まで読み取れる

釣り針の話



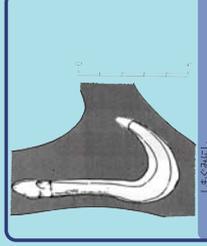
野島貝塚出土の大形釣り針(約1/2)
(正立大学博物館所蔵)



野島貝塚出土釣り針等(1/2サイズに合わせた)

上段の釣り針は1947年(昭和22)に吉田格の発掘調査により出土した野島貝塚出土の釣り針です。長さ6.9cm、幅3.9cmと大形で、素材には鹿角を用いています。頭部には糸掛けとみられる2本の溝が作られています。「てし」から「さき」にかけての一部に、海綿質や表面の凹凸を残し、またその形状から未成品の可能性もあります。また、「さきに「あく」などのひっかかりはみられません。

野島貝塚からはこの他にも、上記の藪野の記録にもみられるように、小形の釣り針も出土しています。当時、赤土と一緒に発掘調査を行っている岡本勇は、釣り針がかなり多く出土していたこと、大形から小形まで様々な大きさのものも出土していることが注目すべき点としています。つまり、野島貝塚の時には魚種によって釣り針を使い分けていたと考えられています。



インジジ上顎骨 (縄文前期) 横浜市下宿区貝塚 (縄文前期) 第2夜(中間にある夜)の分岐部。縄文時代の釣り針の素材の大部分は鹿角です。一般的には鹿角の幹部を集切りにして表面の凹凸と内型に成形したものをから単式の釣り針を作ります。

金子海昌 1984 「貝塚の野鳥の知識 人と動物とのかわり」より転載